

今回は、7月7~8日に行われました日本口腔顔面痛学会学術大会について、昭和大学歯学部の渡邊友希先生に、報告していただきます。

第23回日本口腔顔面痛学会学術大会 参加報告

昭和大学歯学部 スペシャルニーズ口腔医学講座 顎関節症治療学部門 渡邊 友希



「唐作りの天守」の名城、
小倉城。あいにくの雨空。
手前の紫川は濁流で増水。

今年の大会は初の3学会合同開催で、記念すべき画期的な試みだった。・・・一方、西日本豪雨に見舞われた、色々な意味で「記憶に残る」大会であった。以下、レポートする。

第23回日本口腔顔面痛学会学術大会(大会長:松香芳三先生 徳島大学大学院医歯薬学研究部顎機能咬合再建学分野)は、2018年7月7日~8日、北九州国際会議場(小倉)にて、行われた。日本顎関節学会(大会長:鱒見進一先生 九州歯科大学口腔機能学講座顎口腔欠損再構築学分野)、日本歯科心身医学会(大会長:依田哲也先生 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面外科学分野)との、初の3学会合同開催だった。

しかしながらそれは波乱の幕開けで、西日本を未曾有の豪雨が襲った。会員の先生方にも自宅や医院が被災された方がいらっしやることと思う。被災された皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。

前日の6日には多数の委員会・役員会が予定されていたが、ほとんどの先生方が現地にとどり着くことができず、全ての委員会は中止や延期を余儀なくされた。特に陸路を選んでいた方は最も影響を受けた。山陽新幹線の運休により、山口で足止めとなりカラオケボックスで一夜を過ごされた先生や、広島で止まり車中に一泊して翌日の夜にやっと再開、結局なんと新幹線で39時間かかった先生や、そもそも出発を諦めた先生も多くいらした。

空路では、北九州空港着からは何とか小倉にとどり着けた先生が多かった。しかしながら福岡空港からは在来線、バス等が冠水で全てストップし、周辺空港からの交通はほぼタクシーのみとなった。高速道路が閉鎖されており、一般道はそこかしこで大渋滞だった。何とか小倉に着けた人はかなりラッキーで、博多で足を絶たれて急遽、ホテルを手配した先生が多かったと聞く。

海外特別講演の Glenn Clark 教授(USC)は本大会前に岡山大学でご講演をされたが、そこで足止めされてしまった。空路で羽田に行ってから九州入りするプランや、はたまたフェリーなども検討されたが、結局、岡山大学の先生が自家用車で、高速道路が不通のため10数時間かけて一般道で送り、ご講演当日である8日の未明午前2時に到着されたという。そして予定通り、

「Artificial intelligence in orofacial pain diagnosis! (口腔顔面痛の診断における人工知能)」と題して、口腔顔面痛の今後を占う講演をされた。移動の疲れを感じさせないどころか、10:30からの講演に先立って早朝から会場にいらして、パワフルなお姿に感銘を受けた。



メインシンポジウム。左から松香芳三大会長、今村佳樹先生、依田哲也大会長、豊福 明先生、小見山 道先生、鱒見進一大会長。

メインシンポジウムは3学会合同開催ならではの企画で、「痛みを究める～侵害受容性疼痛、神経障害性疼痛、心因性疼痛～」として、各学会の代表者による専門領域の講演が行われた。はじめに顎関節学会の小見山道先生（日本大学松戸歯学部顎口腔機能治療学講座）が侵害受容性疼痛について、またその長期化や慢性化による痛みの移行的な様相について講演された。次に口腔顔面痛学会の今村佳樹先生（日本大学歯学部口腔診断学講座）が神経障害性疼痛について、国際頭痛分類第3版（ICHD3）に基づく最新の知見を紹介された（この度、今村先生は国際疼痛学会顎顔面痛分科会：IASP SIG on Orofacial and Head Painの会長に就任された。この大変喜ばしいニュースを是非、書き添えさせていただきたい）。そして歯科心身医学会より豊福明先生（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 全人的医療開発学講座 歯科心身医学分野）が心理社会的要因の影響を受けやすい心因性疼痛について、その治療戦略をお話しされた。様々な「痛み」について、3学会の会員が共通理解を深めたシンポジウムは2時間では足りない盛り上がりだった。



和嶋浩一先生



川上哲司先生



原 節郎先生

教育セミナー①では「よく診る典型的痛みをどの様に捉えるか、専門による違い」と題して、それぞれの学会が専門とする痛み疾患について紹介された。顎関節痛については川上哲司先生（奈良県医科大学口腔外科学講座）が、また口腔顔面痛については村岡渡先生（川崎市立井田病院歯科口腔外科）が、臨床診断推論の手法に沿って講演された。慢性の舌痛については各演者が専門的な立場から切り込み、大久保昌和先生（日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座）は口腔内灼熱症群の視点から、また原節宏先生（日本歯科大学付属病院総合心療科顎関節症診療センター/口腔顔面痛センター）は筋痛および筋膜性疼痛と捉えた舌痛症について講演された。伊藤幹子先生（愛知学院大学歯学部顎口腔外科学講座）は口腔外科リエゾン外来を行っていらっしゃる見地からの舌痛についてのご講演予定だったが、交通事情でいらっしゃれなかったのは誠に残念だった。座長の和嶋浩一先生が原稿を代読された。



大久保昌和先生

教育セミナー④では様々な学会から引っ張りだこの堀越勝先生（国立精神・神経研究センター認知行動療法センター）のご登壇だった。「セルフケアの効果を高めるコミュニケーションスキル」と題して、認知行動療法を行う前の心構えとして、コミュニケーションスキルの重要性を話された。ワークショップ形式の参加型セミナーは歯科の学会では珍しいが、新鮮な気づきを得ることができた。



堀越 勝先生

それに先立った教育セミナー③では「歯科医師のための認知行動療法の基礎と実践」を松岡紘史先生（北海道医療大学歯学部保健衛生学分野）が、おそらくもっとも歯科にかかわっている臨床心理士のお一人として講演された。歯科の患者に行っている対応の実際を紹介されていて理解が深まった。ご著書（歯科に特化した認知行動療法の本は初）を上梓されたそうなので、さらに勉強したいと思った。

他にも多岐にわたるプログラムでとても網羅できないが、トピックスを挙げると、グリア細胞の基礎研究や、痛覚過敏の末梢および中枢神経におけるメカニズムについて、心の病を知るための脳画像形態解析、痛みの可視化を目指す脳機能イメージング、DC/TMDに準拠した画像検査の講演やハンズオンセミナー、受賞口演、簡易型圧痛測定装置（商品名 Palpeter）や開口訓練器などの新機器の紹介、漢方、歯科医療におけるデジタルイゼーショ

ン・・・など.

さらに口演は36演題, ポスターは75演題の発表があった. 一部で交通事情によりポスターが届かず, 発表者からデータを送ってもらい, 取り急ぎ運営側で小さいサイズながら印刷して貼付するなどの対応策が取られていた.

来場者数が危ぶまれたが, 結果的に大会総参加数は777名で, 事前参加登録550名(うち口腔顔面痛学会会員の事前登録は171名), 当日参加者は227名だった. 参加者も大変だったが, 運営側はさぞかしご苦勞をされたことと思う. 関係者の皆様に御礼と, 盛会となったことをお慶び申し上げます.

そして後日, 理事会は「7月の豪雨および交通遮断にかんがみ, 第23回日本口腔顔面痛学会学術集会(北九州市)は, 会員全員を出席扱いとし, また研修単位を付与する旨」を決議した. ご英断に感謝である.

・・・あらゆる点で, 心に残る学会だった.



村岡 渡先生

学会は専門家集団が集団の知的な共有財産としての学術結果を積み上げ, その営みによって学問的な体系を構築していくためにあるという. その大会では年に一回, 口腔顔面痛に携わる道志が集い, 意見が交わされる. 今回の大会は例年に増して感慨深く, 諸先生方から良い刺激を受けて「明日からも頑張ろう」と思いを新たに帰路についた.

さて来年の第24回大会は, 村岡渡先生(川崎市立井田病院歯科口腔外科)が大会長で, 9月28~29日に行われる. 第20回大会から他の学会との共催が続いていたが, 久しぶりの単独開催である. 単独開催ならではのコアな企画などを検討されていると聞き, 今から楽しみである.



懇親会後のメのラーメン.
九州は何でも美味しい!

渡邊 友希(わたなべ ゆき)先生のプロフィール

昭和大学歯学部 スペシャルニーズ口腔医学講座 顎関節症治療学部門 兼任講師

【略歴】

1996年 昭和大学歯学部 卒業

2000年 昭和大学歯学部 第一口腔外科 大学院卒業

2000年~2004年 昭和大学歯学部 第一口腔外科 員外助手

2008年~ 昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座 顎関節症治療学部門 兼任講師

【所属学会等】

日本顎関節学会(専門医)

日本口腔顔面痛学会(認定医, 評議員)

日本歯科心身医学会(評議員)

日本慢性疼痛学会

日本認知・行動療法学会

ドライマウス研究会

日本口腔顔面痛学会 News Letter へのお問い合わせは

「日本口腔顔面痛学会事務局」まで

〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷株式会社学会事務センター内

TEL: 03-5620-1953, FAX: 03-5620-1960 E-mail: jsop-service@onebridge.co.jp